

## 課題名 鏡視下子宮全摘術における手術支援プログラムのアップデートと米国展開に関する研究

代表機関：株式会社Jmees

分担機関：昭和医科大学

全研究開発期間：2025/9/17～2028/3/31予定

**背景・目的**：子宮全摘術中の尿管・膀胱損傷リスクが臨床課題であり、AIで認識支援を行う製品を米国展開する

- 臓器損傷によって、患者の治療期間延長を招き、術後QOLの低下や医療費の増大、医療訴訟を引き起こしうる
- 子宮全摘術は日本国内では3-4万件、米国では50-60万件実施されており、市場規模が大きい

**取り組み・成果**：日本国内での臨床研究実施、米国手術動画の収集体制構築

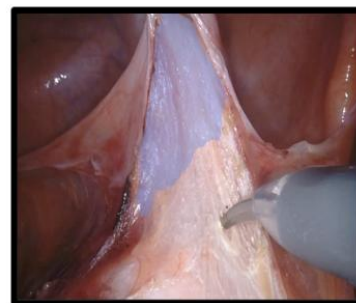
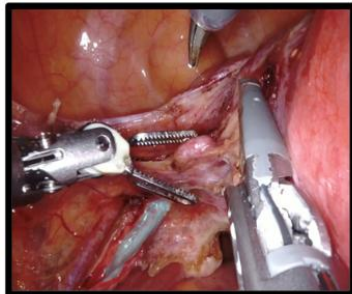
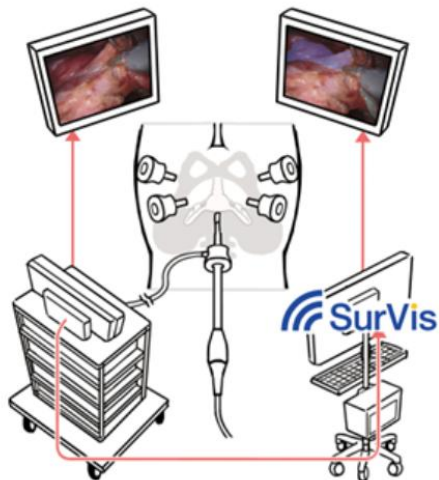
- 日本国内で承認済みの「内視鏡手術支援プログラム SurVis-Hys」の臨床エビデンス構築のための研究開始
- 米国産婦人科医師とのネットワーキングにより、手術動画収集体制を構築

**今後**：米国に適合したAIを作成しFDA申請

- 米国の手術動画収集を完了し、米国に適合したAIの作成
- FDA申請に向けたPre-submission、性能評価試験の実施

### 概要イメージ

#### 内視鏡手術支援プログラム SurVis-Hys 設置・解析イメージ（クラスII）



尿管強調表示と膀胱強調表示